

## 松村 光一郎 氏 学位審査結果の要旨

主査：谷川 昇

副査：松田 博子、湊 直樹

胎児循環の遺残である卵円孔開存（patent foramen ovale: PFO）は、一般成人の約 25%に残存していると言われ、心臓内で右左シャントを引き起こす原因となる。奇異性脳梗塞や偏頭痛など PFO に関連する疾患に対して、カテーテルによる PFO 閉鎖術が行われるようになったが、閉鎖デバイスによる治療成績の差はこれまで明らかではなかった。本研究では 2001 年から 2013 年までに UCLA でカテーテルによる PFO 閉鎖術の治療を受けた患者 167 人を対象に、閉鎖デバイスの治療成績を比較検討した。

用いられた 5 種類のデバイス（CardioSEAL、Amplatzer ASO、Amplatzer PFO、Amplatzer Cribriform、Gore Helex）のシャント閉鎖率は 86～100%（平均 90%）といずれも高い閉鎖率を示した。ただし 30mm Gore Helex のシャント閉鎖率は 44.5%であり、20mm/25mm Gore Helex と比較して有意に低値であった。カテーテル初回治療後にシャントが残存した 17 症例のうち、臨床症状が遷延した 3 症例では、カテーテルによる再開鎖術により全例で残存シャントが消失した。

本研究はカテーテルによる PFO 閉鎖術の高い成功率と、PFO 残存症例に対する再カテーテル治療の有効性を示したものであり、このことは PFO 治療に新たな知見を加えるものであり、博士（医学）の学位に値すると判断した。